

第34回 海洋生物活性談話会（横浜）のご案内（第3報）

1. 日時：2022年 10月29日（土）午後1時～10月30日（日）昼ごろまで

2. 場所：慶應義塾大学矢上キャンパス 14棟地下2階マルチメディアルーム

横浜市港北区日吉 3-14-1

交通アクセス：<https://www.keio.ac.jp/ja/maps/yagami.html>

3. 会費：

一般： 大会参加費： 2,000円

シニア（定年退職された方）大会参加費： 1,000円

35歳以下の方： 大会参加費： 無料

学生（相当）： 大会参加費： 無料

今回は、飲食を伴う懇親会は開催しません。

4. 発表：質疑込みで10～30分を予定しております。申し込み期限：10月23日（日）

発表申し込みは締め切りました。

プログラムは次頁を参照ください。

5. 参加申し込み：

以下の必要事項を明記し、末永（suenaga@chem.keio.ac.jp）までメールでお知らせください。300名程度まで入れる広い会場を準備しております。密にならないと思いますので、ご安心ください。
当日参加も可能ですが、なるべく事前に連絡ください。

*重要：体調不良の場合は参加を見送りください。

- a) 氏名
- b) 所属
- c) 身分 一般・シニア・35歳以下・学生
- d) 連絡先
- e) 発表の有・無

発表ありの場合

発表者：

共著者：

発表タイトル：

世話人：慶應義塾大学理工学部化学科 末永聖武（suenaga@chem.keio.ac.jp）

第34回海洋生物活性談話会プログラム

慶應義塾大学矢上キャンパス 14棟地下マルチメディアルーム

10月29日（土）

13:00～13:20（海洋大、東大院理）永井宏史、井口花音、新庄彬央、川口美欧子、佐藤真伍、渡辺陽光、神尾道也、佐竹真幸、「ラン藻から得られた化合物群；アブリシアトキシン類を中心として」

13:20～13:35（海洋大、東大院理）章博トウ、神尾道也、永井宏史、佐竹真幸、「沖縄産ラン藻から得られた化合物について（その1）」

13:35～13:50（海洋大、東大院理）神田菜緒、章博トウ、神尾道也、永井宏史、佐竹真幸、「沖縄産ラン藻から得られた化合物について（その2）」

13:50～14:20（慶大理工、がん研、東大定量研、弘前大農）栗澤尚瑛、岩崎有紘、寺沼和哉、旦慎悟、豊島近、橋本勝、末永聖武、「新規ペプチド-ポリケチドハイブリッド配糖体 iezoside の構造と生物活性」

14:20～14:45（早大院先進理工、早大理工総研）神平梨絵、新井大祐、中尾洋一、「海洋環状ペプチド kapakahine 類のプローブ化および作用機序の解析」

14:45～15:15（鹿児島大院理工）濱田季之、松山紘士、「ジャノメアメフラシ由来の C15 アセトゲニン類やセスキテルペン類の構造と生物活性」

15:15～15:30 休憩 15分

15:30～15:50（慶大理工）森信之介、川本瑛、宮澤史明、木内達也、佐藤未歩、池谷玲奈、宮崎翔、中田雅也、犀川陽子、「ミドリイガイの貝殻における色素の探索」

15:50～16:20（工学院大先進工、安田女子大薬）大野修、松野研司「海洋シアノバクテリア由来新規キヌレニン産生阻害物質の単離と機能解明」

16:20～16:40（慶大理工、東大院医）海老原 玲、岩崎 有紘、三浦洋平, Ghulam Jeelani, 野崎智義, 末永 聖武、「沖縄県産海洋シアノバクテリア由来新規多ハロゲン化アリールエーテル類の単離、構造決定、生物活性および全合成」

16:40～17:00（神大工）岡田正弘「シアノバクテリア由来のプレニル化酵素に関する研究」

17:00～17:15（慶大理工、慶大文）南方宏太、田口瑞姫、古川亮平「イトマキヒトデ成体における免疫応答時の体腔液成分の分析」

17:15～17:40（慶大理工）川上了史、堀内祐貴、関田美沙、山口紘武、寺家大輔、大石悠起子、松木里紗、安達拓、春日原大地、多田夏奈子、宮本憲二、「バナジウムを濃縮するホヤの研究から着想した大腸菌の実験室進化」

10月30日（日）

9:45～10:00（名大院生命農）恒松雄太、「超炭素鎖有機分子の生合成」

10:00～10:20（慶大理工、東大院医）田口黎武、岩崎有紘、海老原玲、Ghulam Jeelani、野崎智義、末永聖武、「微量ポリケチド beru'amide の単離、構造決定、全合成および生物活性」

10:20～10:35（海洋大、東海大）中村文香、松村博志、神尾道也、永井宏史、本間智博、「ヒメイソギンチャクから得られたカニ麻痺活性因子について」

10:35～11:05（慶大理工、理研、広島大、筑波大）堀田耕司、戸塚 望、土方 希、塩井 剛、渡邊 朋信、岡 浩太郎、笹倉 靖徳、「ホヤ変態に伴う移動能をもつ細胞のイメージング解析」

11:05～11:20（海洋大、新江ノ水）鈴木瞭冴、霜鳥湖音・神尾道也・大迫一史・永井宏史・山本岳・笠川宏子・櫻井徹・足立文、「カミクラゲの化学防御」

11:20～11:45（桐蔭横浜大学医用工、東大院理）吉田 薫、池永潤平・吉田 学、「ホヤにおける精子走化性の種特異性を生み出す分子基盤」

参考資料. 海洋生物活性談話会の歴史

海洋生物活性談話会は、生物学と化学の両方の視点から見つめて海洋生物の不思議な生態を解明していくこうという理念のもとに、生物系と化学系の研究者が交流を深めようという趣旨で開催されてきたものです。本会は、1987年に星 元紀先生（東京工業大学名誉教授）と安元 健先生（東北大学名誉教授）を中心にして発足した会であり、これまで、主に**臨海実験所を中心を開催され、今回で34回目を迎えます。**

これまでの開催地域は以下の通りで、毎年5月に主に開催してきました。資料は2019年度の札幌大会の資料を一部手直しいたしました。

| | | |
|------|------|-----------------------------------|
| 1987 | 第1回 | 下田（筑波大学臨海実験所）【筑波大学】 |
| 1988 | 第2回 | 能登（金沢大学臨海実験所）【金沢大学】 |
| 1989 | 第3回 | 三陸（北里大学水産学部）【北里大学】 |
| 1990 | 第4回 | 広島（広島大学臨海実験所）【広島大学】 |
| 1991 | 第5回 | 清水（マリンバイオテクノロジー研究所）【MBI】 |
| 1992 | 第6回 | 浅虫（東北大学臨海実験所）【東北大学】 |
| 1993 | 第7回 | 沖縄（瀬底：琉球大学臨海実験所）【琉球大学】 |
| 1994 | 第8回 | 三崎（東京大学臨海実験所）【東京大学】 |
| 1995 | 第9回 | 徳島（日和佐：うみがめ荘）【徳島大学】 |
| 1996 | 第10回 | 横浜（中央水研&新潟鐵工所）【中央水研、新技術事業団】 |
| 1997 | 第11回 | 厚岸（北海道大学臨海実験所）【北海道大学】 |
| 1998 | 第12回 | 唐津（九州大学臨海実験所）【九州大学】 |
| 1999 | 第13回 | 高知（宇佐：高知大学臨海実験所）【高知大学】 |
| 2000 | 第14回 | 小湊（千葉大学臨海実験所）【千葉大学】 |
| 2001 | 第15回 | 沖縄【琉球大学】 |
| 2002 | 第16回 | 十和田湖【青森大学】 |
| 2003 | 第17回 | 館山（千葉大学臨海実験所）【海洋大学】 |
| 2004 | 第18回 | 佐渡（新潟大学臨海実験所）【新潟大学】 |
| 2005 | 第19回 | 牛窓（研修センターカリヨンハウス）【岡山大学】 |
| 2006 | 第20回 | 戸田（東大戸田寮）【東京大学】 |
| 2007 | 第21回 | 鹿児島（Kapic センター）【鹿児島大学】 |
| 2008 | 第22回 | 能登（金沢大学臨海実験所）【金沢大学】 |
| 2009 | 第23回 | 三崎（東京大学臨海実験所）【東京大学】 |
| 2010 | 第24回 | 広島（大久野島）【広島大学】 |
| 2011 | 第25回 | 三崎（東京大学臨海実験所）【海洋大学、慶應大学】 |
| 2012 | 第26回 | かごしま水族館（鹿児島）【鹿児島大学】 |
| 2013 | 第27回 | 東京海洋大学品川キャンパス【東京海洋大学】 |
| 2014 | 第28回 | 九州大学生物資源環境科学府附属水産試験所・サンビア福岡【九州大学】 |
| 2015 | 第29回 | 下田（筑波大学臨海実験所）【筑波大学】 |
| 2016 | 第30回 | 鳥取【鳥取大学】 |
| 2017 | 第31回 | 秋田【秋田県立大学】 |
| 2018 | 第32回 | 東京【早稲田大学】 |
| 2019 | 第33回 | 札幌【北海道大学総合博物館】 |
| 2022 | 第34回 | 横浜（慶應義塾大学矢上キャンパス）【慶應義塾大学】 |